


●INDEX

日系ブラジル人と共生する小さな町—群馬県大泉町—	1
下門 直人	
巻頭言	5
”生協の店舗事業”を一緒に創ろう	椎木 孝雄
争論 生協は「店舗」をどう考えるのか?	6
地域のインフラとなる生協づくりを無店舗で	山本 伸司
無店舗を補完する業態として店舗を展開	竹生 正人
特集 地域に愛される店とは?	23
・店舗事業をどう立て直したか	
—大阪いずみ市民生協・おおさかパルコープの事例に学ぶ—	二場 邦彦
・顧客第一主義が実現した地域密着型経営	
—東京・大田区 ダイシン百貨店—	山野 薫
・小さな「百貨店」と村	
—常吉村営百貨店挑戦15年の歩みと今後の展望—	庄司 俊作
・はりまや橋商店街の挑戦	福田 善乙
・直売所運営にみる生産者の主体性を育む事業連携のあり方	
—JAすかがわ岩瀬ファーマーズマーケット「はたけんぼ」を事例に—	田中 佑佳
・生き残りをかけたJA店舗展開戦略	
—島根県いずも農業協同組合—	青木 美紗
私の研究紹介	58
生協と小売業のマーケティング	
—“生協らしさ”とイノベーション—	斎藤 雅通
くらしと協同の本	64
小松崎雅晴 著『なぜ、チェーンストアは成長を止めるのか』	宮崎 崇将
斎藤 修 著『地域再生とフードシステム	
—6次産業、直売所、チェーン構築による革新—	北川 太一
編集後記	69



**表紙紋様 「分銅つなぎの文様」**  
田内隆司/京小紋画像提供 (田内設計事務所)

**小紋  
撰趣**

この文様は、天秤に使用する銅製のおもりである分銅を連ねた模様です。江戸時代、両替商は、銀貨の質量を測定し貨幣としての通用価値を算定するのに、分銅を用いていました。分銅は、貨幣、流通、そして経済の基盤としての役割を果たしていました。当時分銅の意匠は、両替商の看板にも取り入れられていました。明治時代には、銀行のシンボルマークとして使用され、現代に至ってもなお、使用されています。このように、適切な経済流通の象徴として、時代を超えて使われてきた記号であります。